

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日(当事業年度の中間配当の予定はございません)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.fujipream.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777(通話料無料)

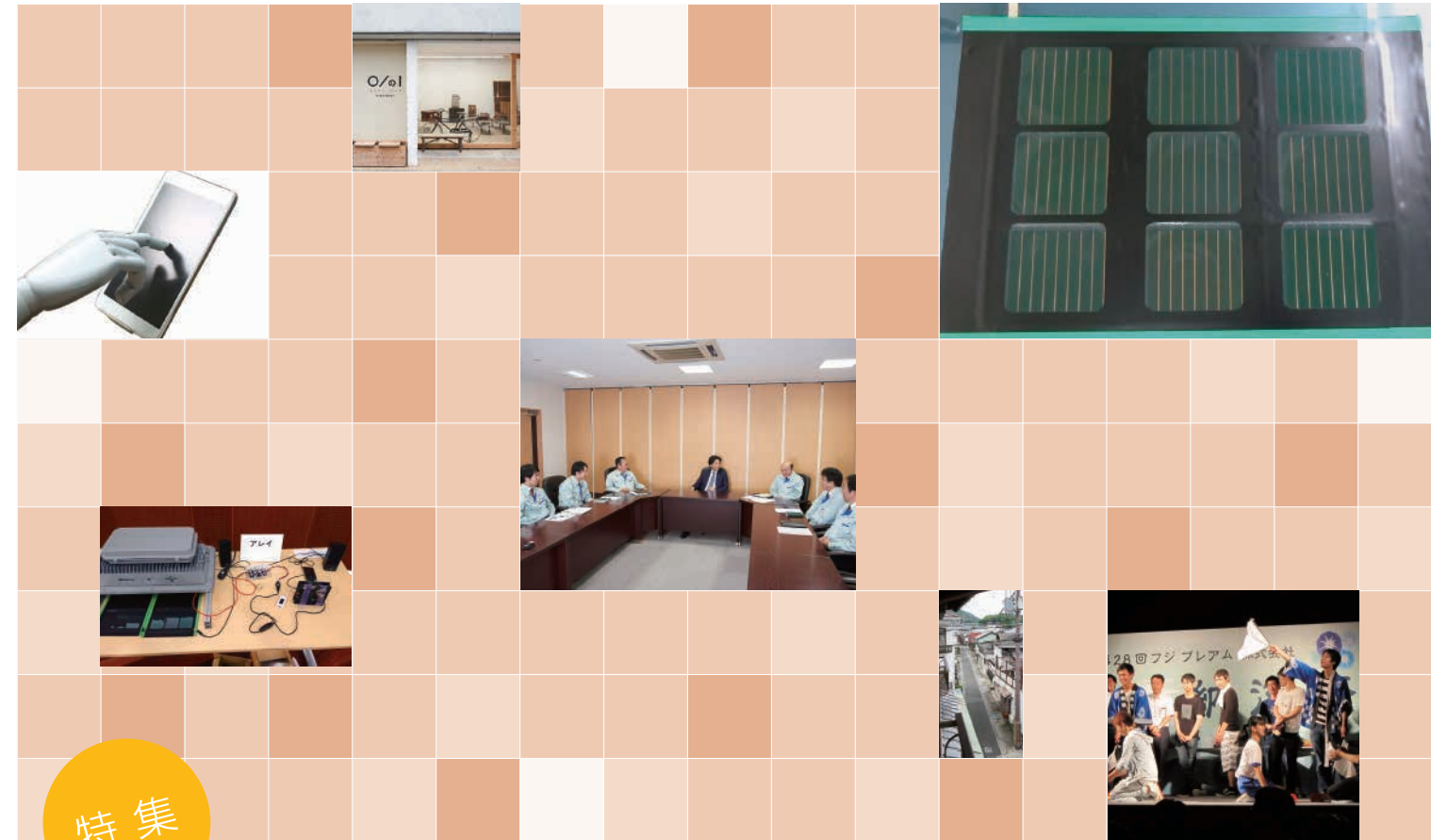
ご注意

- 1 株主様の住所変更、買取請求、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フジプレアムと社会を結ぶ情報誌

PRE【プレ】

フジプレアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様へ適切な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介してまいります。



特集

37年の技術力で、次世代のものづくりを。

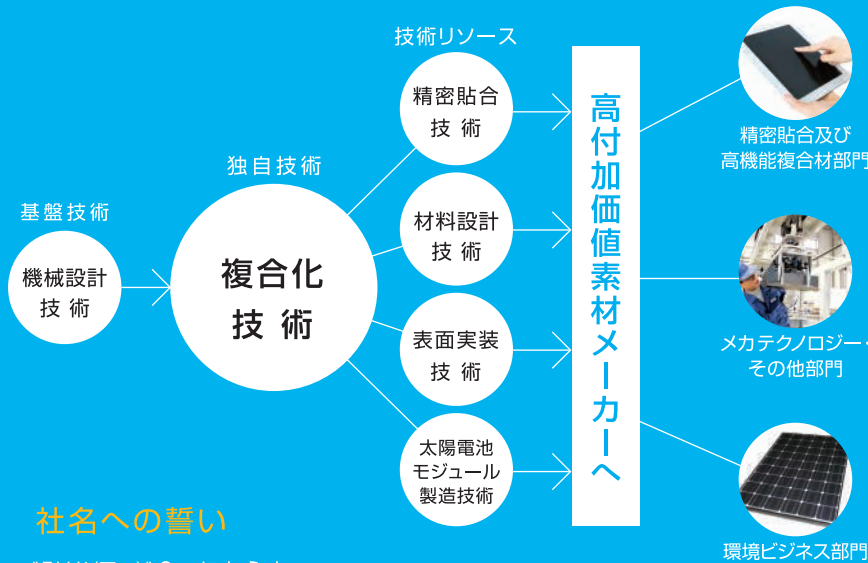
製造現場の自動化・省力化に貢献するメカトロニクス事業部

不可能への挑戦

フジプレミアムは「不可能への挑戦」を掲げ、未来を切り開く研究開発型企业です。

経営ビジョン

フジプレミアムは、精密貼合技術を活かし、新たな価値を創造する素材メーカーを目指します。



経営理念
「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり
創意、継続は大いなる「財」なり
自然は大いなる「恵」なり。
全てに対して大いなる「感謝」

社名への誓い

"FUJI(不二)" 2つにあらず、
"pre" 先駆けて、"am" 存在する企業でありたいと、
常に「不可能への挑戦」を心がけています。



光都工場

光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

複合化技術を活用し、市場に対し、新たな価値を提供し、
先端技術で新たな市場を切り拓いていく。

株主、投資家の皆様には、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素よりフジプレミアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第38期(令和2年3月期)第2四半期決算報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社を取巻くビジネス環境は、輸出の停滞や諸コストの増加により足元で踊り場状況にあります。一方、世界経済は米国と中国の貿易摩擦あるいは日韓の問題等により、先行き不透明な状況が継続しております。

このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、自動車業界あるいは医療機器業界向け等、高付加価値マーケットが伸長しており、当社のビジネス機会も増加することが見込まれます。精密貼合技術やメカトロニクス技術を複合的に活用、新規生産設備の導入による生産の高度化を実施することにより、新たな市場開拓に取り組んでおります。更に、独自の技術を活かした車載関連ビジネス、そして新素材加工事業にも注力、ロボット技術等メカトロニクス技術を応用したファクトリーオートメーションビジネスへの取組みも順調に推移してまいりました。

環境ビジネス部門におきましては、OEM供給品の生産量拡大、メンテナンス市場の開拓等を推進してまいりました。更にOEM供給品については、より製品開発・用途開拓等の開発要素が大きいものにも注力をしてまいりました。

今後、当社といたしましては、これらの複合化技術を活用し、先端技術で新たな市場を切り拓いてまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

代表取締役社長 松本倫長



製造現場の自動化・省力化に貢献する メカトロニクス事業部

常に先進を追求し、時代のニーズを先取りして新しい技術を提供してきたフジプレアム。

その躍進を支えるのが、創業の原点とも言えるメカトロニクス事業部です。

人材不足の解消や生産効率の向上など製造現場の課題を解決するために

得意技術であるロボット化・自動装置化を重点施策と位置づけて新たな挑戦を続けています。



フジプレアムの根幹を支えてきた独自のメカトロ技術。

メカトロニクス事業部は、自動包装機械の製造にはじまり、時代ごとの様々なお客様の要望に合わせて装置設計・開発を重ねることで、独自の技術を蓄積してきました。また社内設備の内製化を実現してきたことも、独自の技術・ノウハウの蓄積に大きく寄与し、包装・食品・医薬品といった分野における生産ラインの

構築などにつながっています。

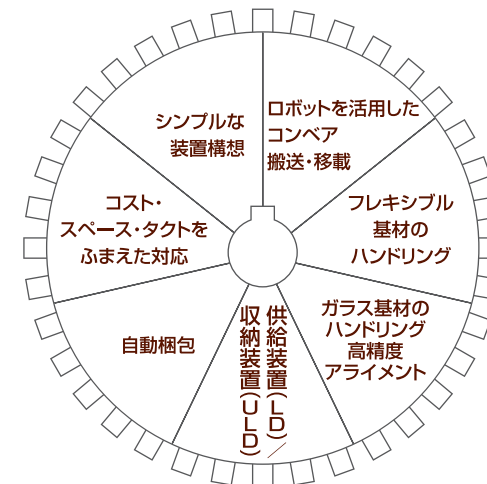
なかでもコア技術である精密貼合が求められる分野では、貼り合わせる素材や形状、大きさなど、求められる課題がその時々によって変化するため、加工ラインの構築や調整をその都度行う必要があります。それにより、他に二つとない独自の加工技術を確立させることができたと言えます。

メカトロニクス事業部が培ってきた数々の独自技術。

日々、先進的な技術を追求するメカトロニクス事業部では、生産性向上を実現するため、独自発想と得意技術の融合に挑み続けています。その一例として、1時間に1800個の処理能力を有するマテハン技術などの多彩な得意技術があります。また、技術だけでなく、コスト・スペース・タクトをふまえて柔軟に対応できるものづくりへの姿勢もフジプレアムの強みです。

最近ではモビリティ分野へ参入しましたが、メカトロニクス事業部が製造した専用機によって可能となった新たな取り組みです。曲面や異形など複雑な加工が求められるなか、独自のメカトロ技術により、新たな形状への加工と量産に対応できています。

フジプレアムの得意技術



代表取締役社長
松本 倫長



代表取締役専務
名村 信彦



メカトロニクス事業部
事業部長 石黒 尚之

2016年から本格的にはじめた 自動化・省人化への挑戦。

30年を超える実績の中で進化させてきた得意技術を活かすために、現在のメカトロニクス事業部では「自動化・省人化」「新規技術開発」「社内生産技術開発」の3つの方針を掲げています。

国民の3人に1人が65歳以上となる2025年問題など少子高齢化は深刻化しており、ものづくりの現場でも人材不足が課題となっています。ロボットの活用による自動化と生産の効率化、共働ロボットを活用した次世代生産設備の構築など、2016年のサンワテクノス様との業務提携が転機となって大きくクローズアップされたテーマもあります。

メカトロニクス事業部方針

1	自動化・省人化	ロボットの活用で次世代生産設備の構築。
2	新規技術開発	レーザー加工技術・レーザー分析技術による新規開拓。
3	社内生産技術開発	3D局面への対応など複合化技術のための生産設備開発。量産案件の装置化

実績を活かしたネットワークと 技術革新の研鑽^{けんさん}で事業領域の拡大へ。

メカトロニクス事業部が手掛ける領域は、事業部内で完結する従前の顧客層が中心でしたが、ビジネスパートナー様の地域制や強みを活かした営業網、それをつなげ達成した実績案件からなるお客様の信頼、リピート、新たな経験から得られる技術革新により、様々な業種へ事業領域の広がりを見せています。

また、物流最大手企業のマテハン設備で当社の技術が認められており、全国のFC(Fulfillment Center)で当社の技術が活かされています。その他、電子部品、金属部品や食品業界などあらゆる領域で様々な案件に取り組むことで、今後の発展につながる技術の底上げをしています。

エリア展開で見ると、北海道から沖縄まで全国各地へ当社の技術で生まれた装置が納品されています。各地域の装置に不具合が生じた際にいかにスピード感を持って対応できるかなど課

題はありますが、AIやIoT技術によるメンテナンスの見える化や不具合時に遠隔操作を行える環境の構築を進めることで、さらなる販路拡大へとつなげていきます。



営業本部 部長
メカトロニクス事業 営業担当
杉本 正則



メカトロニクス事業部
部長 大塚 寛樹

～時代と社会の課題解決に挑む、フジプレアムの技術力～



技術と技術、企業、人、そして未来を「つなげる」。

様々なお客様のソリューションに貢献し、事業展開が広がりを見せる中で重要なテーマとなっているのが、「つなげる・つなぐ」です。

負荷作業を軽減するロボット化、人手不足を解消する自動化を具体化する技術は今、あらゆる業界で求められています。たとえばあるライン工場で当社の得意技術を活かす際に、ラインを構成している複数の装置メーカー間をつなぐという課題が生じます。当社のメカトロニクス事業部と装置メーカーがつながり、連携を

図ることで新たなラインの形成を実現することができます。

また、大手との関わりで複数台以上の案件を受注できており、リピートというつながりも増えています。さらに蓄積してきた技術を応用するという横展開のつながりも期待できます。

もっと広い視野で見ると、事業だけでなく、当社の技術力は社会と地域の課題解決にもつながっています。つながりの連鎖によってメカトロニクス事業部の先進技術はより高度化し、そのフィールドを広げていきます。

付加価値の高い技術で、安心・安全・信頼に貢献できる企業を目指して。

自動化・省人化への取り組みは、今に始まったことではありません。すでに幾つかの企業も取り組んでおり、当社としては、安全性能の追求や人間工学に基づいた快適性能など、より付加価値の高い技術開発を目指しています。

当社がいち早くニーズを把握し、率先して技術開発を行える理由の一つが、業界において他にはない技術を提供してきた実績です。毎日のように最先端の情報が集まることで、そこから次の課題を先読みすることができます。

技術に終わりはなく、課題が尽きることもありません。よりよい未来づくりに貢献するために、「つなげる・つなぐ」をテーマに、搬送技術と省力省人化の実績を応用することでお客様の安心・安全・信頼に貢献できる会社を目指します。



メカトロニクス事業部
係長 平野 和也



メカトロニクス事業部
副主任 湊 慎太郎

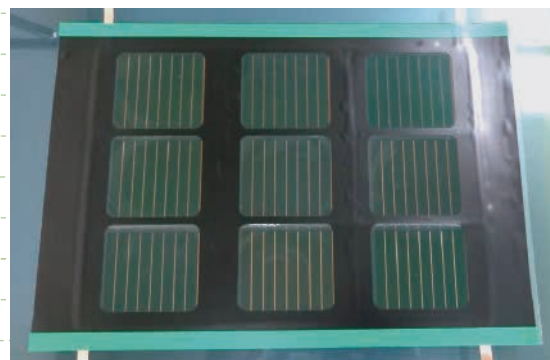
次世代を担うペロブスカイト太陽電池の実用化に向けて

次世代の太陽電池として注目されているペロブスカイト太陽電池の実用化に向けて、京都大学とともに急ピッチで開発を進めております。

フジプレアムではA4サイズのフィルムモジュールの作製を行い、スマホの充電や携帯型扇風機を稼働させることに成功いたしました。

ペロブスカイト太陽電池は、従来の太陽電池に比べ比較的弱い室内光でも発電すること、薄く曲がるフィルム型であること等の特徴を生かして、スマートウォッチなどのウェアラブル端末や災害時の携行型テントなど、幅広い製品への応用が期待されています。

また、従来の太陽電池に比べてプロセスを簡易化でき、かつ高い発電効率をしめすことから、実用化すれば将来的には現在主流のシリコン型太陽電池にとって代わる可能性があり、エネルギー自給率引き上げや地球温暖化防止に大きく寄与することが期待されています。フジプレアムは最先端の技術開発に積極的に取り組み、社会の発展に貢献してまいります。



トピックス Topics

TOPICS 01 第37回定時株主総会を開催

第37回定時株主総会を下記の通り開催いたしました。
【日時】令和元年6月27日(木) 10:00～
【会場】フジプレアム本社ビル4階 大会議室



TOPICS 03 地元小中学校への新聞提供

弊社では大白書中学校、白鳥小学校への新聞提供の協賛を行っております。学生への教育支援の一環として、今後も継続していきたいと存じます。



2019 6 June 7 July 8 August 9 September 10 October

TOPICS 02 第28回フジプレアム株式会社納涼祭開催

8月3日(土)に第28回フジプレアム納涼祭を開催しました。大白書中学校吹奏楽部の演奏、兵庫県立大学のダンスパフォーマンス、双子デュオ「まゆみゆ」のステージに大変盛り上がりました。今年も地域の方々にご参加いただき、大盛況のうちに終えることが出来ました。



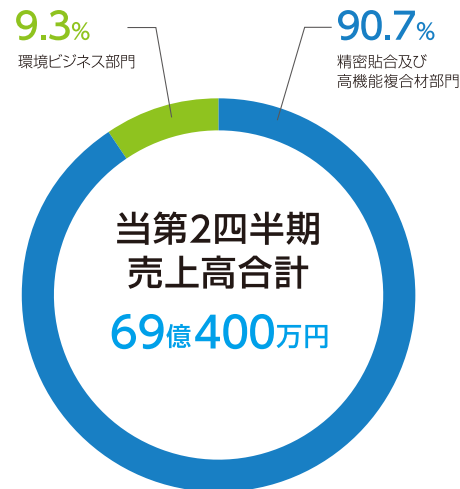
セグメント情報 Segment Information

親会社株主に帰属する四半期純利益3億5,800万円確保

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出の停滞や諸コストの増加により足元で踊り場状況にあります。一方、世界経済は米国と中国の貿易摩擦あるいは日韓の問題等により、先行き不透明な状況が継続しております。

このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門を取り巻く環境におきましては、中国の電子産業分野の不安定な状況の影響を受けつつも、自動車業界あるいは医療機器業界向け等、高付加価値マーケットが伸長しており、当社のビジネス機会も増加することが見込まれます。一方、環境ビジネス部門におきましては、国内再生可能エネルギー市場における制度変更の影響により、引き続き厳しい市場環境となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高6,904百万円（前年同四半期比48.9%増）、営業利益183百万円（同21.0%減）、経常利益188百万円（同29.8%減）を計上いたしました。また、受取解決金300百万円等を特別利益として計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は358百万円（同68.0%増）となりました。



精密貼合及び高機能複合材部門



第38期 第2四半期売上高
62億6,200万円

国内外におけるディスプレイ・タッチパネル市場は、スマートフォン向け市場の成長率が鈍化する一方で、テレビ用途のサイズアップ、車載用途市場が拡大しております。また、医療機器業界向けのシェアも拡大し、教育分野そしてアミューズメント分野等に使われる用途も拡大しており、市場全体としては引き続き成長が見込まれます。一方で、様々な分野で多品種小ロット化が進んでいることや、必要部材等の高額化等により原価率も高まる傾向にあります。このような市場の変化の中、精密貼合技術やメカトロニクス技術を複合的に活用、新規生産設備の導入による生産の高度化を実施することにより、新たな市場開拓に取り組んでおります。更に、独自の技術を活かした車載関連ビジネス、そして新素材加工事業にも注力、ロボット技術等メカトロニクス技術を応用したファクトリーオートメーションビジネスへの取組みも順調に推移してまいりました。

この結果、売上高6,262百万円（前年同四半期比62.4%増）、営業利益183百万円（同7.7%増）となりました。

環境ビジネス部門

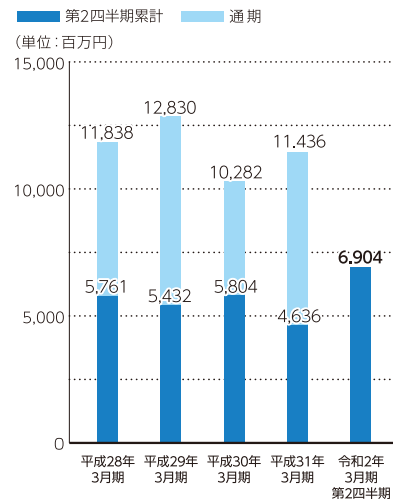


第38期 第2四半期売上高
6億4,100万円

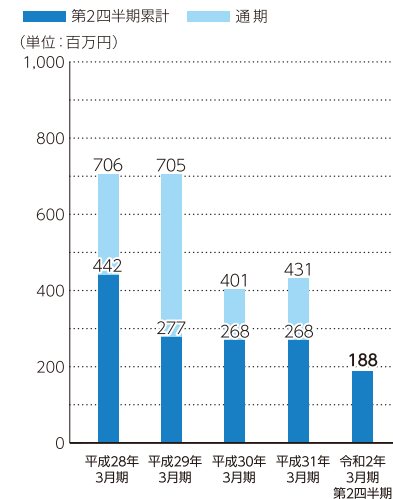
太陽電池の国内市場は、固定価格買取制度の見直しと買取価格の低下、また、海外生産品による価格競争の激化により、産業用市場の環境が一層厳しさを増しました。また、OEM供給品も生産量の拡大を目指し取組んでまいりましたが、市場環境の悪化の影響を受けております。このような状況下、OEM供給品については製品開発・用途開拓等の開発要素が大きいものに注力、更にメンテナンス市場開拓も推進してまいりました。この結果、売上高641百万円（前年同四半期比17.6%減）、営業損失2百万円（前年同四半期は55百万円の営業利益）となりました。

財務ハイライト Financial Highlight

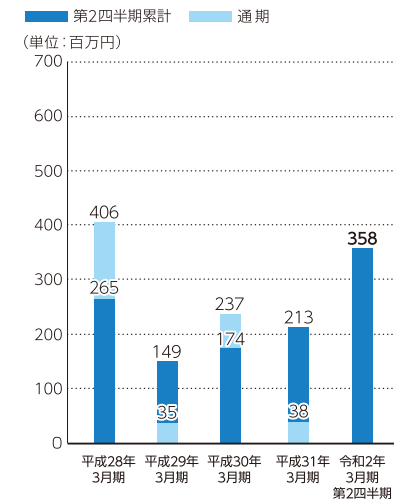
売上高



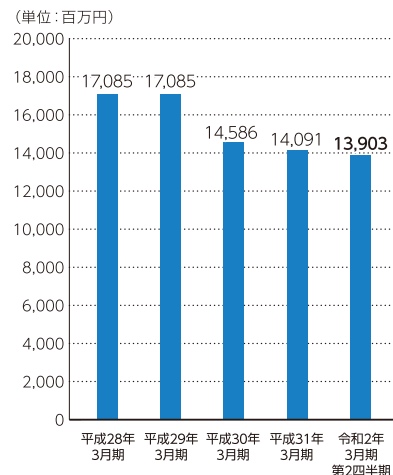
経常利益



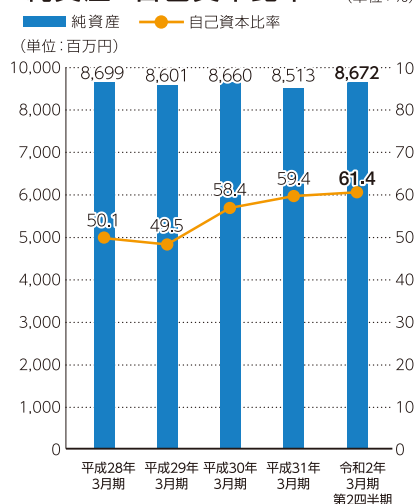
親会社株主に帰属する純利益



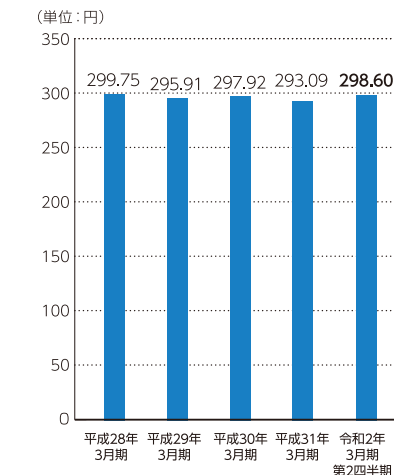
総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産



第2四半期 連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (令和元年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成31年3月31日)
流動資産	6,016,865	6,303,731
現金及び預金	3,044,014	3,467,603
受取手形及び売掛金	1,541,559	1,488,750
商品及び製品	238,309	267,731
仕掛品	636,951	620,056
原材料及び貯蔵品	528,720	425,250
その他	27,310	34,338
固定資産	7,886,759	7,787,941
有形固定資産	7,342,750	7,188,328
無形固定資産	3,427	3,468
投資その他の資産	540,582	596,144
資産合計	13,903,625	14,091,673

資産の部

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (令和元年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成31年3月31日)
流動負債	3,594,182	3,791,084
支払手形及び買掛金	832,853	1,163,928
短期借入金	2,130,000	1,830,000
1年内返済予定の長期借入金	405,636	567,906
未払法人税等	123,789	94,024
賞与引当金	12,190	11,885
その他	89,714	123,339
固定負債	1,636,683	1,787,390
長期借入金	1,599,896	1,749,914
その他	36,787	37,476
負債合計	5,230,866	5,578,474
株主資本	8,521,634	8,334,333
資本金	2,000,007	2,000,007
資本剰余金	2,440,803	2,440,803
利益剰余金	4,944,713	4,757,413
自己株式	△863,890	△863,890
その他の包括利益累計額	10,874	40,745
非支配株主持分	140,250	138,118
純資産合計	8,672,759	8,513,198
負債純資産合計	13,903,625	14,091,673

負債の部

純資産の部

第2四半期 連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 (平成31年4月1日から 令和元年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成30年4月1日から 平成30年9月30日まで)
売上高	6,904,412	4,636,053
売上原価	6,297,411	3,995,351
売上総利益	607,000	640,702
販売費及び一般管理費	423,328	408,211
営業利益	183,671	232,490
営業外収益	15,832	41,160
営業外費用	10,799	4,968
経常利益	188,704	268,682
特別利益	328,231	493
税金等調整前四半期純利益	516,936	269,175
法人税、住民税及び事業税	101,273	32,476
法人税等調整額	54,780	22,879
四半期純利益	360,882	213,820
非支配株主に帰属する 四半期純利益	2,132	295
親会社株主に帰属する 四半期純利益	358,750	213,524

第2四半期 連結包括利益計算書

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 (平成31年4月1日から 令和元年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成30年4月1日から 平成30年9月30日まで)
四半期純利益	360,882	213,820
その他の包括利益	△29,871	994
その他有価証券評価差額金	△7,521	3,499
為替換算調整勘定	△22,350	△2,504
四半期包括利益	331,010	214,815

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 (平成31年4月1日から 令和元年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成30年4月1日から 平成30年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	43,676	520,143
投資活動による キャッシュ・フロー	△288,817	△349,853
財務活動による キャッシュ・フロー	△184,470	△386,360
現金及び現金同等物に係る 換算差額	5,486	22,521
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△424,125	△193,549
現金及び現金同等物の 期首残高	3,417,603	3,737,792
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,993,477	3,544,243

Profile

会社概要

(令和元年9月30日現在)

商号	フジプレミアム株式会社 Fujipream Corporation(英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	精密貼合及び高機能複合材関連事業 環境ビジネス関連事業 他
従業員数	208名(連結、臨時雇用を含む)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京営業本部
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社(設立:平成13年4月)
主要取引銀行	三菱UFJ銀行／みずほ銀行

取締役及び監査役

(令和元年9月30日現在)

代表取締役社長	松本 倫長
代表取締役専務	名村 信彦
取締役	木村 裕史(社外)
取締役	森田 晃史
常勤監査役	牛尾 哲之
監査役	中川 康徳(社外)
監査役	田島 宏一(社外)

株式の分布状況

(令和元年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	4,092名

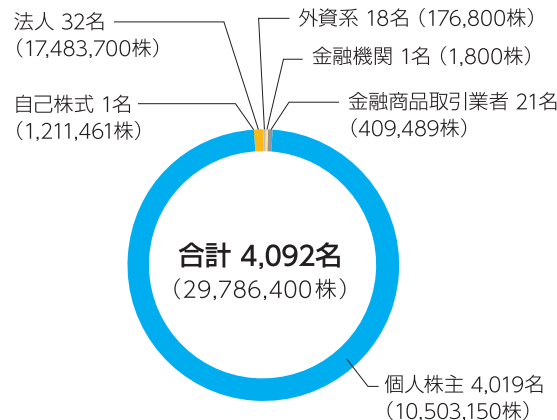
大株主の状況

(令和元年9月30日現在)

フォローウインド株式会社	12,092,700株
松本 倫長	2,441,400株
松本 庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
日亜化学工業株式会社	1,425,000株
フジプレミアム株式会社	1,211,461株
リンテック株式会社	936,000株
AGC株式会社	807,100株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
立花証券株式会社	286,200株

株式分布状況

(令和元年9月30日現在)



播磨に生きる人に出会う

播磨人

はりまびと

Vol.6 クリエイティブディレクター 丸山 大貴さん

[まるやま・だいき]兵庫県出身。株式会社テッタオデザインオフィス 代表取締役

播磨人とは？

播磨を拠点に活躍する職人やアーティストの多くは、全国や世界へと播磨文化の魅力を発信しています。地域を愛し、文化を継承する人たちとの出会いをお届けします。



地域の価値を再発見し、明るい未来へ

西脇市のかつて栄えた商店街の一角に、古民家をリノベーションしたオフィスがある。そこは「マルブunnoichi」という地域密着型メディアの拠点であり、地域の活性化に向けた取り組みを行っている。代表の丸山大貴さんは、隣町の加東市で生まれ育ち、大学進学と共に上京。そのまま東京で就職し、ブランドデザインデザイン会社を起業。この春、西脇にセカンドオフィスを構えた。「帰省するたびに、西脇を訪れていました。東京のメトロポリタンな感じよりも昭和らしさを感じる西脇市に惹かれる自分がいました。」

都会を知ることで地域の価値に気付くことができた。この街にあるものを資源として皆が認識し、播州織に続くあらゆる地元発ブランドをつくるきっかけとなるための活動をはじめた。地域を本気で元気にするために、一過性ではなく継続性が大事。自治体が行う事業ではなく、丸山さんのような民間が行うことに意味がある。

マルブunnoichiの具体的な活動としては、まず地域WEBメディアを立ち上げた。「マスメディアが深掘りできていない街の魅力を発信していきたい」という想いで、地元の人にも知らない素敵な場所やモノを日々探している。そうした地域の価値を再発見するための機会として、リノベ古民家とその周辺を舞台としたマーケットイベントを主催。この秋には4回目のイベントが開催され、40ものブースやワークショップなどで賑わいを見せた。その他、地元のサイクルショップや商店会のSNSコンサル、運営を代行するなど、少しずつ地域とのつながりを生んでいる。

丸山さんは平成生まれなので昭和のリアルは知らない。だからこそ、西脇市の風情を大切にしたいという想いが芽生えたのかも知れない。そして、そう思うのは丸山さんだけではないはずだ。地元民や共感する人たちと一緒に、新しく懐かしい西脇の未来を描こうとしている。

OFFICE DATE



株式会社テッタオデザインオフィス 西脇支社
〒677-0015 兵庫県西脇市西脇147
WEB: <https://marubunnoichi.com/>
IG: <https://www.instagram.com/marubunnoichi/>
FB: <https://www.facebook.com/marubunnoichi/>

車 中国自動車道「滝野社IC」で降りて、国道175号線を北上

バス 「大阪駅」または「三宮」から西脇営業所行の高速バスで「東本町」下車すぐ

電車 JR「加古川駅」で乗換。JR加古川線で「西脇市駅」より徒歩20分またはバスに乗り換「東本町」下車すぐ
JR「谷川駅」で乗換。JR加古川線で「新西脇駅」より徒歩13分



マルブunnoichi the STORE

「田舎ゆえに手に入らないものと、田舎(産地)ゆえに手に入るもののお店」
accessory, fabric, tableware, tea, coffee, organic foods, vintage furniture, retro toys...



営業日: 日・火・金
定休日: 不定休
営業時間: 11:00~15:00
※時間外にお越しになりたい方はご連絡ください。

オンラインストア >>> marubunnoichi.store